

カンパラ通信～ナカセロの丘から

第1回 私の住んでいるところ

平成28（2016）年6月に駐ウガンダ日本国大使として着任しました亀田和明です。どうぞよろしくお願いいたします。日本にとってまだまだなじみの少ないウガンダのことや、日本とウガンダの様々な関わりについて、日本の皆様により多くのことを良く知っていただければと思っています。これからこの大使館のホームページ上で、「カンパラ通信～ナカセロの丘から」として折に触れてお伝えして参ります。

第1回のテーマは、まず身近なところからと考え私が住んでいるところの紹介から始めます。題して『私の住んでいるところ』です。

皆様はアフリカの赤道直下にある国、ウガンダと聞いてどのようなイメージを持たれますか？赤道直下なので、灼熱のジャングルを思い浮かべるでしょうか？いいえ、実は、首都のカンパラは標高1300mの高地にあるため、年間平均気温は摂氏23度。なんと一年を通じて夏の軽井沢のような爽やかな気候に恵まれております。首都カンパラは、世界で2番目の、アフリカでは最大の淡水湖であるビクトリア湖の北岸に位置している丘の街です。ローマになぞらえて「七つの丘の街」と呼ばれることもあります。私の住む大使公邸は、そのうちのひとつであるナカセロという丘の麓にあります。

この公邸に住んで気付いたことに、庭にウガンダらしい植物が育っていることがあります。最も重要な植物はバナナ、こちらではマトケと呼ばれている青いバナナです。熟しても青いままで、黄色くなりません。そして信じられないことに、このバナナ全く甘くなりません。この甘くならないバナナの実をよく蒸してマッシュした料理もマトケと呼びます。カンパラ地方一帯で広く主食とされているものです。マトケ自体に味がありませんので、グレイビー・ソースやピーナッツ・ソースをかけて食べます。マッシュポテトにグレイビー・ソースをかけて食べるのと似ていますね。

この主食用バナナと日本でよく見る普通の果物バナナやミニバナナを含めると、ウガンダのバナナ生産量はインドに次いで世界第2位となります。

それでは公邸の庭にあるバナナの木を紹介します。たまたま実をとったばかりなのでこの木には実がありませんが、収穫したバナナも紹介します。



(写真1：バナナの木)



(写真2：マトケ)

その他、公邸の庭にはコーヒーの木やパイナップルの木もあります。なかなかエキゾチックでしょ。

コーヒーの生産量でウガンダは、世界のトップ10に入っておりアフリカではエチオピアに次いで第2位です。ウガンダの全輸出額に占めるコーヒー豆の割合は約20%、ウガンダにとって一番の輸出産品となっています。

コーヒー豆は大きく分けて、アラビカ種とロブスタ種に分けられます。ストレート・コーヒー(例えばモカ)として銘柄がでているのはアラビカ種のコーヒーです。ウガンダのコーヒーは、後者のロブスタ種が大半です。その品質は悲しいことにアラビカ種より劣るとされ、苦みも強いことから、用途としては、アラビカ種の補充用、インスタントコーヒーや缶コーヒー等に用いられているようです。皆さんの好みの缶コーヒーの隠し味にウガンダ産のコーヒー豆が使われているかもしれませんね。

しかし、ウガンダにおいても高地を中心にアラビカ種のコーヒーも産出しているところもあり、ウガンダ産アラビカ種の「ブギス (Bugisu)」は近年日本でも高い評価を受けているようです。



(写真3 : コーヒーの木)



(写真4 : パパイヤの木)

果物ではパパイヤの木が二本あります。一本は赴任前に収穫済みで、今はもう一本のパパイヤの実が熟すのを待っているところです。

ところで、果物と言えばウガンダのパイナップルのおいしさは言葉では言い表せ無いほどです。まず外れることはないくらい、それはそれは甘いパイナップルなのです。パイナップルは公邸の庭にはなく、これからでも植えてみてはと考え、庭師に相談してみました。しかし、実がなるまで早くて2年はかかると言われてしまい、パイナップルを育てるか否かを今考えているところです。

(以上)